

留学報告書 ～留学で学んだこと～

東義大学
国際文化学部（中期）

韓国中期交換留学に参加しました。幼いころから韓国ドラマを見て育ち韓国語がほんの少しできる状態だったので韓国語力を確認、伸ばすために良い機会だと思い参加することを決めました。自信をもって出来るといえるほどの実力があつたわけではないですが、留学することで将来の選択肢を増やせるだろうと思いました。

留学初日、韓国も初めて、海外自体も初めてでとても不安でした。私は同じ大学に留学する人と一緒に行きましたが二人ともとても緊張していました。韓国に向かう飛行機で生まれて初めて生の韓国語を聞きました。CAさんの韓国語です。何と言っているのか分かりませんでした。韓国ドラマで聞く韓国語はある程度聞き取れていたのに、いざ生で聞いたら理解出来ず結局そのCAさんとは英語での会話になりました。とても悔しかったのを今でも覚えています。そして自分の考えの甘さを痛感しました。

韓国では、空港まで大学の先生と生徒が迎えに来てくれていました。二人とも日本語がペラペラで大学に着くまでずっと日本語で会話をしてくれました。せっかく韓国留学に来ているのに日本語で話していたら意味がないなと思ながらもその時は緊張や不安が大きく、落ち着かせるためにそうしました。韓国に来て2、3日で語学堂というクラスが始まりました。1日目は韓国語のレベル分けテストがありました。クラスは3つに分けられ、私は真ん中レベルの2クラスに分けられました。授業の1日目、ついていけるか、理解できるか不安がとても大きかったです。授業が始まると、当たり前ですがすべてが韓国語で今なんと言ったのかを考えているともう次の言葉、また次の言葉とどんどん進んでいってしまい1時間前後の授業を受けるのにとっても苦労しました。そして授業自体とても難しく、ついていける自信がなかった私は先生のもとへ行き、授業が難しく内容の理解が出来ないからクラスを変えてほしいと伝えに行きました。韓国語の先生はまだ1日目だし、分からなくて当然だからとりあえず1週間頑張ってみようといわれました。それから毎日予習復習をして授業の中で分からないことがあれば必ず聞くようにしたおかげで、1週間後には韓国語に耳も慣れてきて理解できることが格段に多くなりました。それからは毎日の授業は難しいけれど楽しいものになっていきました。最初の授業から1か月ちょっとで中間テストが行われました。チュソクの休みの後で自分一人での勉強が大事になってくるため休みの最中も時間があるときは勉強をしました。テストは聞き取り、書き、読みの3つで私は書きが特に苦手なので何度も復習してテストに挑みました。テストの結果は全体的に平均的という感じでしたがもう少し取れたような気もするので次はもう少し頑張ってみようと思いました。

普段の生活では交換留学のバディプログラムで私と先輩の二人とバディのオンニにいろいろなところに連れて行ってもらっていました。オンニと出かけるときは極力韓国語で会話をしていました。オンニは日本語が出来るので、単語が分からない時や文法が正しいか分からない時はその場で聞いたりして、遊びに行っているときも韓国語の勉強をしていました。オンニから教わる韓国語は授業で先生からは教わらない若者言葉や、ちょっとした発音の違いなどでした。授業では私一人のために多くの時間を使ってもらうことは出来ないで、授業以外での勉強もとても大事だなと思いました。

私は普段からかなりの人見知りで留学が始まったころは自分からクラスメイトに話しかけることが出来ていませんでした。しかし、クラスで初めて話かけてくれた人と少しずつ韓国語で会話をするようになり、お互いに完璧な韓国語ではないからこそ楽に話せて勉強にもなっていました。それからクラスの人に自分から話しかけることが少しずつ出来るようになっていき、一緒に遊びに行ったり、フォトグレイを撮ったり、カフェでのんびりお話をしたりと、とても楽しい時間を過ごしました。お互いの間違っただ単語や文法を確認しながら会話するため、とてもいい勉強になっていました。当たり前ですが、クラスメイトは日本語が出来ないから自分の知っている韓国語をフル活用しながら話さないといけません。わからない単語があったり、相手が何と言っているのか分からない時も当然ありますがそれはそれで楽しく解説したりしていました。自分の大学で日本語を専攻している中国の人が何人かいたので、授業の休憩時間や遊びに行った時は私とその人たちに日本語を教える機会もありました。反対に私自身も大学で中国語を専攻しているので中国語を教えてもらったり、中国語は発音が難しいので発音の練習をしてもらったりウィンウィンな関係性も築いていました。ベトナムやミャンマー、フランスの子もクラスメイトにいて休憩時間にはその国の言葉をたくさん教えてもらったりもしていました。ミャンマー語は文字が特殊で書くのも発音をするのも難しく、ミャンマーの友達は私の発音を聞いてよく笑っていました。教えてもらった言葉を他の人に言ってみたところ、「おー！すごい！」としっかり聞き取ってもらえてとても嬉しかったです。

今回の留学でわたしは自分から何か行動を起こすことの大切さを学びました。まず、留学に行こうと決意し、志望理由書を出したことが自分にとって大きな一歩でした。留学が決まってからも自分から行動を起こしてやらなければいけないことがたくさんありました。その中でもクラスメイトに話しかけたことは一番心に残っています。あの時話しかけたことで普段は自分から友達を作ることが出来ない私が、帰国後もインスタグラムや他のSNSで今でも連絡を取り合うほど仲良くなれました。留学で得た友達は一生ものとして聞きますが本当にそうだと思います。お別れの日には、「いつかまた韓国でも、お互いの国でもいいから会おうね。会いに行くね。」と約束を交わしました。またいつかみんなに会いたいです。この留学で学んだ自分から何か行動を起こすことはこれからの学生生活や、これから始まるゼミでの活動、そして就職活動にも生かしていきたいです。この留学での貴重な経験を忘れることなく、学んだ韓国語も忘れることなくこれからもグローバルな学びをしていきたいです。